

<p>目指す学校像・育てたい生徒像</p> <p>目指す学校像 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、「高い人格・広い教養・強い責任感」の校訓を掲げ、6 ヶ年一貫の男子教育を通して、確かな学力を身につけ、キリスト教精神に基づく人間の尊厳の深い理解と愛の実践を会得したすぐれた生徒の育成を通して社会に貢献することを旨とする学校</p> <p>育てたい生徒像 ・人を思いやり、互いに協力し合える人類愛を実践する資質を持つ生徒 ・人間の尊厳が尊重された社会を作っていくために何が必要なのかを考え、会得していく知性を持つ生徒 ・自らの行動が正しい価値観に基づくものなのか自己の良心に問いかけ、その行動に責任を持つ生徒</p>
--

<p>学校評価の公表方法</p> <p>1. 重点目標・具体的取組・評価項目・評価指標の共有・周知： ①教職員：職員会議(2025年4月4日) ②生徒・保護者等：本校 HP 公表(2025年5月19日) ③学校関係者評価：育友会・常盤会・友の会役員に個別評価を依頼（2025年5月）</p> <p>2. 学校評価（自己評価と学校関係者評価）結果の公表： 職員会議(2026年4月予定)、本校 HP 公表(2026年5月予定)</p>

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組（2025年4月1日策定）			評価（2026年3月31日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	
1	選ばれる男子部であるための教育の深化	C	<p>「将来構想委員会」を再構築し、創立100周年に向けた取組の第1歩として、これまでの周年行事の資料の確認を行い、本校の歩みを確認する中で、設立時の理念の再確認を行う</p> <p>各種学校活動について自己点検・評価を行う校内組織を定め、自己点検・評価が機能する組織体制を構築する</p>	<p>「男子部の良さ」を再度構成員で認識し、教育活動に反映していく</p> <p>広く社会に共感・理解を得ながら「選ばれる男子部」となることを目指す</p> <p>教育モットーや校訓の再認識を行い、男子部の特色を再評価し、男子部の特色が教育モットーおよび校訓の実現に収れんされていくようカリキュラムや行事等の改善をめざす</p>	C	<p>将来構想委員会を10月17日に開催し、今後の方向性や活動方針について協議した。3月に開催される「学園創立100周年に向けた理事長と教職員との懇談会」に、将来構想委員を参加させ、学園と男子部それぞれの100周年にむけた連携の可能性も模索する。</p> <p>新たに設置した自己点検委員会を10月20日に開催し、学校評価および事業に関する自己点検・評価等に対応していくこととした。</p>	<p>将来構想委員会において、男子部の未来に向けた「ビジョン」をいったん創立95周年の2027年度に示せるように検討・準備をすすめる。</p> <p>自己点検委員会による点検活動と、各部・委員会等による点検活動のあり方や区分けについて検討する。</p>

<p>学校関係者評価（2026年1～2月実施） (2025年12月15日時点の自己評価を評価)</p>
<p>ビジョンを2027年度に示すまでに、生徒や保護者に対して進捗を発信し、取り組みやその目的を知ってもらう機会をつくるとよい。</p> <p>全体でつくり込むのは難しいと思うが、授業の一環で1度ぐらい生徒たちにもビジョンを考える機会をつくると、ビジョンに到達するまでの課題や新たな視点が発見できてよい。</p> <p>卒業生から「男子部の良さ」や今後選ばれる男子部にするための具体的な方策をヒアリングするとよい。</p>

2	さまざまな教育連携による「南山男子部だからできる教育」の実践	C	南山大学との新たな連携事業を2025年度中に最低1件取組開始できるよう、検討する	南山大学との教育連携について、現在の連携をさらに改善・深化させ、学園内連携推進協議会や高大協議会を軸に、南山大学との新しい連携取組を充実させる	C	南山大学理工学部や人文学部との現在の連携を深化させる取り組みの一つとして、学部や大学院研究室（ゼミナール）での学びを体験・見学する取り組みについて検討しており、2026年度での実現に向けて、大学に対して意見交換の場を作ってもらおうよう申し入れた。	大学内での検討結果の連絡があり次第、大学と協議を行い2026年度の実施に向けて具体的な調整を行う。	常盤会や育友会との繋がりも活用し、様々な企業や現在進学実績の少ない大学との連携を模索するのもよい。
			学園内中学校・高等学校との教育連携の可能性について、関係する学園所管会議体を軸に、他単位校と意見交換を行い、可能性を探る	女子部を含めた学園内中学校・高等学校との教育連携について、学園小中高連絡協議会や学園内連携推進協議会等を軸に、教職員・生徒間での人的交流、正課・課外活動での連携を増加・充実を推進する	B	10月28日に開催される各単位校国際交流担当者の交流会で、本校国際交流委員会委員長から男子部の取り組みを紹介し、他単位校との連携の可能性等について意見交換を行った。例年8月に女子部と共催しているGlobal Studies Programについて、2026年度からの聖霊校参加を実現することができた。	Global Studies Programについては、聖園校の2027年度からの参加ができるよう日程等の調整を検討する。	経験値の多い大学生や社会人からの学びだけでなく、自らが教えることによって得る学びもあるので、小学校との連携もあってもよい。
			愛知県私学協会や中部地区カトリック学校連盟の組織を活かした、カトリック校間の教職員・事務職員交流の機会や、上智大学での新たなプログラム開発の可能性について、関係各校と相談・企画を行う	他のカトリック中学・高等学校や現在連携協定を結んでいる上智大学との連携を強化し、ミッションスクールの特色を活かした教育連携を検討・企画する	C	12月12日に開催される上智大学・カトリック高等学校連携協定校連絡協議会に教頭が出席し、上智大学関係者と今後の教育連携について意見交換を行った。	男子部として希望しかつ実現可能性が高いプログラム案を検討し、引き続き行う上智大学関係者との協議の際に打診できるように準備する。	南山＝英語教育というイメージが少なくなっているように思える。国際交流を更に促進し、国際色を打ち出すようにしてはどうか。
								学校関係者評価委員会構成： 南山高等・中学校育友会役員、南山常盤会役員、南山中学高校友の会役員に学校関係者評価を個別に依頼・実施した。